

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月19日現在

機関番号：12703

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2018

課題番号：26780114

研究課題名(和文) 労働サーチ理論を用いたライフサイクル上の雇用・失業分析

研究課題名(英文) Search-Theoretic Analysis of Employment and Unemployment over the Life-cycle

研究代表者

藤本 淳一 (Fujimoto, Junichi)

政策研究大学院大学・政策研究科・准教授

研究者番号：00507907

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の主目的は、労働者の年齢を明示的に扱うライフサイクル・労働サーチ・マッチング・モデルを主に用い、人々のライフサイクルにおける雇用・失業に関わる問題を分析することである。本研究の理論分析においては、企業と労働者が長期雇用契約を結ぶ場合の最適な賃金の経路や、労働サーチ・マッチング・モデルを応用してモデル化した金融市場モデルにおける最適な金融政策につき、新たな理論的知見を得ることができた。データ分析においては、日本の労働力調査の個々の労働者レベルのデータを分析することで、集計データからは判明しにくい性別・年齢毎の労働者の就業行動につき理解を深めることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

上述の長期雇用契約についての研究からは、社会が労働者の厚生(総和)の最大化を目指すのか、最も恵まれない労働者の厚生(個人)の最大化を目指すのかで最適な賃金の経路が全く異なることが判明した。金融市場についての研究からは、経済におけるショックの性質によって望ましい政策ツールが異なることが分かった。日本の労働市場についての研究では、一口に非正規雇用といっても性別・年齢によってそのあり方が大きく異なることが判明した。本研究によるこれらの発見は、人々のライフサイクルにおける雇用・失業に関わる問題やそれに関連する経済的問題についての、社会的に有意義な新知見と史料される。

研究成果の概要(英文)：The main objective of this research is to analyze the problem of one's employment and unemployment over the life cycle by mainly using a "life-cycle labor search and matching model" which explicitly introduces the age of workers into a standard labor search and matching model. The theoretical analyses yielded new theoretical insights on the optimal wage path when firms and workers engage in long-term employment contracts as well as on the optimal monetary policy in a model in which the credit market is introduced in a search-theoretic fashion. The data analyses of the Japanese labor market microdata enabled us to deepen our understanding of the labor market behaviors of workers by gender and age, which are difficult to observe from the aggregate data.

研究分野：マクロ経済学

キーワード：マクロ経済学 労働サーチ理論

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

経済主体が集権的市場で直ちに取引相手を見つけられるとする経済学の伝統的想定とは異なり、現実市場では往々にして、取引相手の存在についての不完全な情報等、何らかの摩擦が存在する。こうした摩擦をモデル化したのがサーチ・マッチング理論であり、これを労働市場の分析に応用した労働サーチ・マッチング・モデルは現在、雇用・失業分析の一般的な枠組みとなっている。

この労働サーチ・マッチング・モデルを用いた研究はその殆どが、各労働者は無限期間生存するか、一定確率で死亡又は引退すると仮定してきた。当該仮定は解析的分析を容易にする一方、現実経済で雇用・労働に関する労働者及び企業の意思決定を大きく左右する、年齢と言う側面を捨象してしまっている。そのためこうしたモデルでは、多くの国で若年者の失業率が最も高いことのような、特定の世代・年齢層に関係する雇用・労働問題を分析対象にできない。

近年、この点を正面から受けとめて世代重複モデル的な要素を取り込み、ライフサイクルを加味した労働サーチ・マッチング・モデル(以下、ライフサイクル・労働サーチ・マッチング・モデル)が一部で研究され始めた。その特徴は、労働者の年齢を明示的にモデルの要素とし、年齢により労働市場から退出するまでの残り期間が異なると仮定することである。研究代表者は従来よりライフサイクル・労働サーチ・マッチング・モデルを用いた研究を行ってきており、本研究では引き続き本モデルを主に用いて自他による先行研究を一層発展させることを目指した。

### 2. 研究の目的

この研究の主な目的は、労働者の年齢を明示的に取り扱うライフサイクル・労働サーチ・マッチング・モデルを主に用い、人々のライフサイクルにおける雇用・失業に関わる問題を分析することである。特に、自他による研究の進展を踏まえ当該モデルの理論的特性の一層の把握・整理を行うことに加え、女性労働者の結婚・出産に起因する労働市場からの退出等、労働市場の実状を踏まえたより現実的なモデルを構築することを企図した。

### 3. 研究の方法

本研究では理論分析とデータ分析の双方を行った。

理論分析においては、企業と労働者が長期雇用契約を結ぶ場合における最適な賃金経路が社会厚生関数によりどのように変化するかにつき、動学的契約理論の知見を活用した分析を行った。また、サーチ・マッチング理論を応用して金融市場をモデル化したニューケインジアンモデルにおいて、最適金融政策の理論的導出を行った。

データ分析においては、労働市場の実状を反映するライフサイクル・労働サーチ・マッチング・モデル構築のための資料を得るため、日本の労働市場の正確な理解に努めた。特に女性労働者の雇用・失業問題や近年社会的関心を集めている非正規雇用問題の現状と特質の把握のため、労働力調査・労働力調査特別調査のマイクロデータの提供を受け分析を行った。

### 4. 研究成果

本研究では、主に以下の三つのプロジェクトを実施した。

一つ目のプロジェクトでは、労働サーチ・マッチング・モデルに長期労働契約を導入した上で、最適賃金経路の理論的分析を行った。具体的には社会厚生が全労働者の厚生に等しいベンサム型と、最も恵まれない労働者の厚生に等しいロールズ型の社会厚生関数の下での最適賃金経路を比較し、前者の最適賃金経路は市場均衡では達成されないのに対し、後者の最適賃金経路は特定条件下で市場均衡においても実現されることを示した。二つ目のプロジェクトでは、標準的ニューケインジアンモデルに、労働サーチ・マッチング・モデルを応用してモデル化した金融市場を導入した。その上で、労働サーチ・マッチング・モデルの知見を活用して最適金融政策につき理論的分析を行うとともに、現実的な金融政策や金融市場政策が社会厚生に与える影響につき分析を行った。この二プロジェクトは大学のセミナーや学会で活発に発表し、それぞれディスカッションペーパーFujimoto and Lee (2016)、Fujimoto et al. (2017)としてまとめた。三つ目のプロジェクトでは、当初の研究関心であった女性労働者の雇用・失業問題から発展して日本及び日本同様に非正規雇用の割合が高いスペインの非正規雇用問題につき研究を行うこととし、日本の労働力調査及びスペインの類似調査のマイクロデータの提供を受け、日本のデータを中心に分析を進めた。当該分析から、性別・年齢等によって正規雇用・非正規雇用間の移行パターンに大きな違いがあること等の結果が得られ、分析結果に基づいた論文執筆に努めた。

### 参考文献

Fujimoto, J. and J. Lee (2016): "Efficient Risk Sharing under Limited Commitment and Search Friction," GRIPS Discussion Paper 16-15.

Fujimoto J., K. Munakata, K. Nakamura, and Y. Teranishi (2017): "Optimal Policy Analysis in a New Keynesian Economy with Credit Market Search," GRIPS Discussion Paper 16-30.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

Fujimoto J., K. Munakata, K. Nakamura, and Y. Teranishi (2017): “Optimal Policy Analysis in a New Keynesian Economy with Credit Market Search,” GRIPS Discussion Paper 16-30、査読無.

Fujimoto, J. and J. Lee (2016): “Efficient Risk Sharing under Limited Commitment and Search Friction,” GRIPS Discussion Paper 16-15、査読無.

〔学会発表〕(計 6 件)

藤本 淳一、Optimal Policy Analysis in a New Keynesian Economy with Credit Market Search, Society for Economic Dynamics Annual Meeting、2018年6月30日、メキシコシティ(メキシコ)

藤本 淳一、Efficient Risk Sharing under Limited Commitment and Search Friction, European Meeting of the Econometric Society、2017年8月24日、リスボン(ポルトガル)

藤本 淳一、Optimal Policy Analysis in a New Keynesian Economy with Credit Market Search, European Economic Association Congress、2017年8月22日、リスボン(ポルトガル)

藤本 淳一、Efficient Risk Sharing under Limited Commitment and Search Friction, Singapore Economic Review Conference、2017年8月4日、シンガポール(シンガポール)

藤本 淳一、Efficient Risk Sharing under Limited Commitment and Search Friction, Chinese Meeting of the Econometric Society、2017年6月9日、武漢(中国)

藤本 淳一、Optimal Policy Analysis in a New Keynesian Economy with Credit Market Search, Shanghai Jiao Tong University Workshop on Macro Finance、2017年5月20日、上海(中国)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www3.grips.ac.jp/~j-fujimoto/>

## 6 . 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

### (2)研究協力者

研究協力者氏名：ジュレン エステバン プレテル

ローマ字氏名： ESTEBAN-PRETEL, Julien

研究協力者氏名：ジュンサン リー

ローマ字氏名： LEE, Junsang

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。